

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム うえの
(ユニット名)	ふくの家
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市上野町5200番地1
記入者名 (管理者)	田中 洋子
記入日	平成 21 年 9 月 1 5 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1 自分のペースで生活出来るように暖かく見守ります。 2 清潔な場所でオシャレをして、いつも笑顔で楽しく過ごします。 3 家族や地域の方々との交流を大事にします。 4 趣味活動を生かしながら生きがい作りを持ち続けます。 町内会の夏祭りや敬老会などへの参加を通して地域の方々との交流を図っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週月曜日の朝礼時、並びにイベント事などに職員全員で理念の唱和を行なっている。		より理念に沿った介助、援助が出来る様に、職員間での連帯に努める。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設広報誌(ハッスルだより)などの発行や長くゆっくり過ごさして頂く為の雰囲気作りなど、ご家族との関係に留意している。地域住民の方に来ていただける、夏祭りを目指し、又、その場で施設について皆さんに知って頂く様に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開放的な環境作りについて考慮する。門扉の開放や立ち寄って貰えるような環境作りを実施している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域夏祭り、敬老会などに参加している。「出向く」だけでなく、施設行事に「来ていただく」事で交流を深めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会の活動に参加する様に努めている。		災害時の独居老人の受入などについて、実現を目指し実状を把握していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組む事により、気づきあいケアを見直しサービスの質の向上に活かす様努めている。		評価を受ける事によりよいケアサービスの向上に努める。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的で開催し、理解と協力体制のもと出来ている。行事等話し合い計画し地域との交流につなげる様努めサービスの質の向上に活かす。		会議での意見を取り入れる事で向上を目指す。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市議員、町内会の方々へホームでの行事参加を呼びかけ等をする。ホームの行事だけでなく、町内会の行事も参加させて頂きサービス向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の理解については深めているが、活用するまでには至っていない。		勉強会への参加、活用機会を増やし自設での勉強会を実施していける様努める。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケア・サービスにあたり虐待は絶対に許しません、いたしませんを実践している。		利用者本人の状態に沿った形でよりよい方向を見極め、家族への説明了解のもとで使用する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時に説明を行い、質問等を受け納得頂いた上で入所して頂く。面会時などにコミュニケーション図り、御家族様の意向を伺うようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情や意見には、その都度カンファレンスを行い改善していく。</p>		<p>カンファレンスを行い統一したケアが出来るように努める。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の案内や面会時などの説明にて報告、特変時等電話連絡実施している。</p>		<p>家族の理想に近付ける様、より緊密な関係を図っていききたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱の設置を行い、苦情や意見にはその都度話し合っている。</p>		<p>苦情や意見をより良いサービスへつなげて行けるようにしていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的なケース会議、職員会議で意見交換を行っている。「ほうれんそう」の徹底に努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>上司、スタッフ間で随時勤務調整されている。随時、公休交替など行い勤務調整している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>他方のユニットへも出勤時、退社時顔を出し利用者の方とコミュニケーションを図っている。異動は最小限ほとんど行なわれていない。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加の機会を持ち育成に努めている。施設内にも研修チームを作り勉強会等を開き日々努力、向上に努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム経営者連絡協議会や近隣グループホームと連携を組みサービスの向上を目指し努めている。		より良いサービス、介護を目指し他施設の情報を取り入れ、研修会の回数を増やし勉強していく。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務希望、勤務交替を全面的に行っている。スタッフ同志の食事会、飲み会等を設け、ストレス軽減を図っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	意見等を話し合い、各自が向上心を高め合える働きかけをしている。スタッフ同志意見を交しやすい様に雰囲気作りに努める。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当者会議の実施と、その内容についてより御家族、本人の話に耳を傾けるものとする。		気軽に要望や希望の訴えが口に出来る、その環境作りに努める。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記会議や初期頃の面会にて、よくお話を伺う事を考慮する。		こちらからお話を伺うなど、御家族の気持ちに配慮する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望に耳を傾け、隣接施設(デイサ - ビス)も含めたサービスにて対応を行なっている。日常のレクリエーションや行事にて要望の実現に近づく事が出来ないか、常に検討している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と職員の相互理解を土台として、利用者に安心してサービスを利用していただける様に考慮している。		面会の頻度などについて、家族と相談し、ご理解いただきながら、施設でのサービスに、本人が溶け込んで頂ける様にする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	語り合う場を忘れずに、生活を共有しているという意識の中でケアを行なっている。		利用者とのより良い相互関係を目指す。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	密に連絡・連係を取り合い、共に支え合うという意識の中で関係を作っている。		当施設サービスについて、家族に理解を求め、又、家族の要望にも耳を傾けて、信頼関係を築く。
29	本人と家族のより良い関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事等の案内を行い、いつでも面会に来ていただける様、配慮している。		家族の目線になって、利用者のケアが行なえる様、又、密に連絡を取る様配慮する。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	脳活性トレーニングも兼ねた回想法により馴染みの人や場所についてのお話を伺っている。		家族を通して、馴染みの人や場所についてどういったアプローチが可能なのか検討してみる。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席順の考慮。職員による橋渡しにて、利用者同士の会話も促している。日常の行動(洗濯物たたみなど)、お互いに声掛け合いながら進めていらっしゃる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	立ち寄りやすい施設、又、夏祭りなどのイベントを通じて継続的関わりが保てるように取り組んでいる。		利用者・職員が一体となって、「お迎えする」姿勢を持つことが出来る様に配慮する。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴、共感を常に念頭に置いてケアに取り組んでいる。		コミュニケーションの中で本人の希望が引き出せる様に考慮する。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシー保護とのバランスを保ちながら情報の共有について取り組んでいる。		回想法の中でお話を伺い、より良いケアより深い理解に努める。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子観察、そしてその記録について適切に行っている。		個々人の現状を的確に把握出来る様に、関わり方について考慮する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人希望、家族の要望を聞いてアセスメント、モニタリングを行い課題となる事柄について援助サービス内容について意見を出し合う。		日常での心身の状態把握に努め計画に反映させる。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院後や状態変化時など期間に関係なくケア会議、本人・家族の意向をお聞きしながら計画変更している。定期的なモニタリング、月々のケアプランチェック表での担当者の評価を参考にしてプラン作成、見直ししている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日報・日誌など記録やその伝達には留意している。		より良い記録の形を互いに提案し、向上に努めている途上でもある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接デイサービスとの関係にて温泉浴やイベントなど実施している。		家族からは、温泉浴への希望も多くそれに対応する形が実施されているが、さらなる充実を図る事とする。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域に根ずき、野里小学校や消防署、町内会長の方などに協力を依頼し安心出来る事を目標にしている。より広く地域資源の活用を目指し、情報収集し活用している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のサービス事業所やケアマネと定期的に連携を取り情報提供し合い支援に努めている。		必要性を見極め積極的に他のサービスの活用を支援していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	いつでも連絡相談ができる関係作りや話し合いの場を持ち関係を図る。		積極的に関係の構築に取り組む努力をする。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	数名の方が4週間毎、係りつけ医の往診を受けている。係りつけ医と事業所の関係について良好な状態が保たれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	診断書や内服薬等の相談を密に行い、職員が理解する事により、より良い支援を実践している。日常の変化を見逃せず、すぐ対応できる様に体制作りに取り組んでいる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常変化をチェックし、協力医療機関や係り付け医の看護師等へ密に連絡を取り健康管理や医療活用の支援を行う。昨年度より看護師も1名増の3名になり、細目に相談支援を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	細目に面会や連絡を行ない情報交換に努めている。心身の両方から支援する事で早期復帰を目標としている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現に終末期まで過ごされる方はいないが、本人、家族と話し合い看取りが出来るようスタッフ共に方針を共有している。家族の方針を共有するため、細目に情報交換出来る様、努力実践している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	年齢と共に重度化になりつつある。利用者が増えている現状であり、出来る出来ないを見極める必要性があり常に向上に努めている。		今後を予測し、ケア会議を密にし検討して行く様努力する。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む事に対し不安にならない様、情報交換を密に取っている。サービス事業所、行政、本人を交えて相談を行い自立へと進まれた事実がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録物の保管、情報の伝達についてプライバシー保護が適切に伝える様に配慮している。記録物、保管棚の施錠など情報管理に努めている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>可能な方には日記帳を記入して頂くなどして、希望や思いの表出を促進している。</p>	<p>きめ細かなケアを目指し、本人のお話や文章の本質を見極める努力をする。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>可能な限り、本人のペースに沿った生活が提供出来る様に支援している。</p>	<p>本人の希望の実現について、どこまでが可能なのか見極め、最優先事項として取り組んでいく。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>経営理念の1つであり、身だしなみやオシャレの支援について配慮している。理髪については、概ね職員が行なっているが、希望に沿った整髪にて、皆さん大変喜んでいらっしゃる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の下ごしらえなど、お手伝いを頂いている。</p>	<p>衛生面などにも配慮しながら、食事の準備片付けについて一緒に取り組んでいく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>コーヒーなどの嗜好品、希望に合わせて楽しんで頂いている。月1回喫茶コーナーの実施。健康状態に配慮しながら、嗜好品の提供を行なっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄パターンの把握、情報の共有に努めている。状態を観て、リハビリパンツから布製パンツへ切り替えなどして頂いている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>現状、決まった曜日の入浴であるが、汚染時のシャワー浴などは柔軟に対応している。隣接施設設備(温泉)の活用にて、大変好評であり、現在月当たりの利用回数の増加について検討中である。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>採光の工夫や寝具の整理に心がけている。天候の良い日に布団を干すなどの支援や心地良い入眠に導くケアなどに心がけている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>日常会話や仕草を観察し、利用者にとって良いものが提供出来る様に考慮している。</p>		<p>個々人の希望や生活歴に目を向けて、より充実した支援を目指す。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在お金を使用目的で所持していらっしゃる方はいない。</p>		<p>外出や買物支援など合わせて、支援のあり方について検討していく。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>地域行事や遠足、外食など外出の機会を設け支援している。戸外の外気浴、日光浴など、日常的にして頂いている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族との外出にて墓参りや温泉などに出かける方もいらっしゃる。</p>		<p>利用者の希望を伺い、実際に行くことが可能かどうか検討し、外出支援を計画したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中・残暑見舞いの作成など支援している。		日常の中で電話や手紙のやり取りを支援出来る様に配慮していく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	開かれた施設、長く居たい施設、また訪れたい施設を目指している。お茶やレクリエーションの時間を共有して頂き、楽しんで頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の連携による見守りを基本とし、日々取り組んでいる。		勉強会・討論会の中で、より良い介護を目指す。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の施錠は行っていない。日中は、窓を含め出来るだけオープンにし開放的な環境作りを行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認の徹底、連携を重視して介助行なっている。安全とプライバシー保護のバランスについて十分配慮が行なえている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬の管理については徹底している。		何が危険なのか、についても日々の生活の中で観察し、未然に防ぐ事を目指す。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書や前例事故資料を用い、事故防止の取り組みを行なっている。		職員間、声かけによってさらに良いものを作り上げて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一部の職員に依存しがちなのが実情である。		勉強会を企画しており、その中で全職員のレベルアップを図りたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施し、その訓練において地域の人々も参加・協力いただいている。連絡網の作成や対策マニュアルの配布により、職員の迅速な対応を目指し実践している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の理解を重視し、共により良いケアを目指している。		利用者にとってのストレスを取り除ける様、日常観察を怠らない様考慮する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも変化を感じた時は早目のバイタルチェックを行なっている。情報の共有、早急の対応について日々配慮、実践している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量について日々確認しているが、全ての薬についての理解が万全とは言い難い。		薬等資料について、職員がいつでも閲覧できる環境の整備が必要である。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	海藻類・根菜類を摂取していただくなど、常に心がけている。		職員や利用者全員に対して周知していく事が重要であるから、考慮していく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについて、確実に実施している。利用者個々人の状態に合わせた支援が行えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残す事で、特変時の見落としがない様に実践している。夏場など細目に水分補給を勧めるなど支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルについて、常時閲覧できる環境が整っている。消毒液など常備し、その大切さについて職員全体が理解している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生面については十分配慮している。また、食材の管理についても配慮している。		勉強会のテーマとして取り上げ、安全性を高めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	網戸の活用、オープンな玄関に安心して出入り出来る環境である。花壇の明るさなど、近隣の方にも親しみが持てる環境作りに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の雰囲気作りには注意を払い実行している。壁飾りなど、職員手作りの掲示物にて季節感を楽しんでもらえる環境である。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置の考慮、また、個人個人の希望にも耳を傾け、可能な限り対応している。		利用者間コミュニケーションにおいて、職員が橋渡しして、更なる充実を図って頂きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の壁の掲示板には、家族が持ってこられた写真などが飾られ、本人も安心出来るのではないかと。		家族との会話の中で、本人の過去に目を向け、より良い居室の環境作りに取り組んでみたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候に配慮した上で、室温管理や換気を実施している。発汗しやすい方、寒がりな方等個々の状態に配慮して実践している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの活用、テーブルやソファの配置について考慮している。		床が濡れていないか、物は落ちていないか等、気配り目配りを充実する。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	傾聴の姿勢を念頭に置いて、全職員取り組んでいる。日記帳の活用により、本人のわかる力を活用し、穏やかに過ごして頂ける様配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	菜園や近隣芝生など、外周りには楽しんで頂ける環境が整っており、また、それを活用している。		個人個人のその日その日の状態に合わせて活動できる様に、その方について探していきたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

月1回の温泉入浴を楽しみにされているが、今後は、この温泉入浴を2回に増やして行きたい。「ポニー(小馬)」2頭がホームに仲間入りしています。入居者の方々がポニーを見に居室から出る機会が多くなり、外でのお茶も格別ようです。利用者の方々が、安全に安心して楽しく過ごして頂き、長く居たい施設を目指して努力します。